

『反日レインズムの狂気 ジャパンズ・ホロコースト との正体を暴く』の紹介

大東 信祐 陸自57

最近米国において『ジャパンズ・ホロコースト』と云う図書が出版された。この図書では日本は先の戦争（大東亜戦争）で「劣等民族」を絶滅させようと三千万人の恐ろしい大量虐殺を行ったと荒唐無稽な主張をしているトンデモ本である。

著者はブライアン・マーク・リッゲ氏 Brian Mark Rigg で、エール大学で学位、更にケンブリッジ大学で博士号を取得し、米国軍事大学、陸軍士官学校、サザンメソジスト大学等で歴史の教官を歴任と云う輝かしい職歴を持ち、ウイキペディアでは作家、海軍歴史研究者、講演者と紹介されている。

リッゲ氏によると、「日本は1927年から1945年まで18年（満洲事変から大東亜戦争の終末）にわたって、『劣等民族』の絶滅のため少なくとも3000万人の大量虐殺を行つた」とし、その内訳は、

中国	20000万人
インドネシア	4000万人
ベトナム	200万人
印度（ベンガル飢饉）	150万人
フィリピン	100万人
朝鮮	50万人
タイ（泰緬鉄道）	34・5万人
マレー・シンガポール	20万人
沖繩	1万6751人
サイパン	15万人
テニアン	18万人
グアム	4000人
合計	2989万751人
	20000人

とされておりそれぞれの数値についても信頼することができない。

また、いわゆる「従軍慰安婦」は日本の性奴隸文化であるとし、米国による膨大な戦死者の発生を防いだ等の記述に対し、茂木氏（陸修偕行社会員）は本書において根拠を示して反論を加えている。

『ジャパンズ・ホロコースト』は

中国の云う三戦の「世論戦」「心理戦」に当たり、立派な肩書きを持つ人物の名でデマを流布し、日本を貶めて有利な情勢を招来しようという作戦の

一環であると疑われる。

いわゆる「従軍慰安婦」問題においても、韓国側で強調されている「強制連行」、「その数は20万人」、「終戦時に証拠隠滅のため殺害」、「性奴隸」等の言葉はいずれも韓国側が声高に反復主張し、左傾化したマスコミ等がこれらの言葉を反復使用することにより一般に何となく誤った観念をすり込まれたものであると言える。

これは米国での出版であるが、日本においても、「日本航空123便の墜落事故の原因は、海上自衛隊のミサイル訓練であり、地上から救難に赴いた陸上自衛隊はその証拠隠滅のために火炎放射器で墜落現場を焼き払った」とする図書が元日航職員により出版され、これが全国学校図書館協議会選定図書となり、また事故現場の登山道に「自衛隊が意図的に殺害した乗客・犠牲者」と書かれた慰靈碑が建立されているという。

これについては、産経新聞で報じられたほか、参議院の委員会で佐藤正久委員から当局に対し質問があり、國、地方ともに遺憾であるとの表現はあつたが具体的な施策を執る意思も能力も見当たらないようである。

茂木氏は本書を英訳し出版の予定であると聞く、海外にも反論が届くことを期待したい。

『ジャパンズ・ホロコースト』は米国で出版されたものであるが、茂木氏は本書を英訳し出版の予定であると聞く、海外にも反論が届くことを期待したい。



ハート出版 價格1650円（税込）

Tel / Fax 03-3590-6078
東京都豊島区池袋3-9-23

〒171-0014